

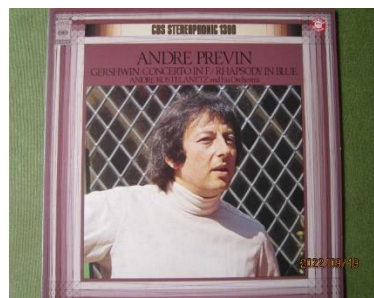
森 繁治

アンドレ・プレビンの演奏

アンドレ・プレビン（1929～2019）はベルリン音楽大学とパリ音楽大学でピアノを学びましたが 1939 年ナチスに追われ 10 歳の時、家族と共にアメリカに移住しました。アメリカでは 10 代から天才ジャズピアニストとして有名になり映画音楽のアレンジャーとしても活躍して人気を集めていました。その後クラシックの大指揮者ピエール・モントーに指揮を学び 1963 年にセントルイス交響楽団の指揮者としてデビューし、69 年（35 歳）にはロンドン交響楽団の首席指揮者に抜擢され、この楽団に黄金期をもたらしています。新鮮で躍動感溢れる演奏が特徴とされ晩年 80 歳から 3 年間 NHK 交響楽団の首席客員指揮者もしています。

なお、プレビンは写真の通りのイケメンで女性遍歴も華やかだったらしく結婚も 3 回して、名ヴァイオリニストのアンネ・ゾフィ・ムターとも 2 回の結婚と再婚を繰り返しています。

今日は 1950 年代の若い頃にジャズピアニストとして活躍していたレコードを紹介します。



マイファ・レディーのジャケット ラストインブルーのジャケット

若い日のプレビン

1 ミュージカル マイファレディから

- 1 教会に間に合うように行ってくれ (4:11)
- 2 君住む町角 (5:40)
- 3 彼女の顔に慣れてきた (3:21) T 13:12

アンドレ・プレビン（ピアノ）

シェリー・マン（ドラムス） ルロイ・ヴィネガー（ベース） 1956年8月録音

2 ラプソディ・イン・ブルー 13:52

これはジョージ・ガーシュイン（1898～1937 米）の作品でガーシュインはアメリカの風土とジャズを生かした作風で有名です。この作品は始めはピアノとジャズバンドの為に作曲しましたがバンドリーダーのホワイトマンがシンホニック・ジャズに編曲を依頼します。しかしガーシュインは管弦楽の作曲に不慣れでだったためグランドキャニオンの作曲者グローフェに管弦楽の編曲を依頼して完成しています。作品はガーシュインのピアノ、ホワイトマンの指揮する管弦楽団で演奏されアメリカの音楽史上を飾る名曲と成りました。

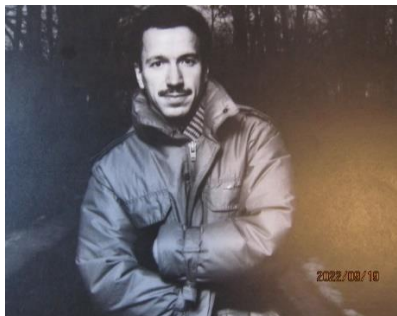
アンドレ・プレビン（ピアノ）

アンドレ・コステラネッツ指揮 コストラネッツ管弦楽団 1960年3月録

キース・ジャレットの演奏



心の瞳のジャケット



キースジャレット

キース・ジャレット (1945～) はペンシルバニア州出身のジャズピアノ奏者・作曲家で3歳よりピアノを始めその後、ヴァイブ、ドラム、ソプラノサックス、等を習得して17歳の時に2時間の自作のピアノソロ・コンサートを開いています。1963年にバクリー音楽大学(米)でジャズピアノとその編曲等を学び70年マイルス・デーヴィスの楽団などで人気を集めました。その後ピアノソロとカルテットなどの演奏活動をして世界的人気のモダンジャズ演奏家と成りました。日本にも78年以来7回来日して日本で行ったソロコンサートを集めた10枚組のレコードが発売され話題を呼びました。

私は友人から提供を受けた数枚のLPで彼の演奏に出会いましたがどの演奏も格調高く楽器の音色も磨き抜かれて見事です。今日聴いて戴きます「心の瞳」はライブ録音で観客は異常なほどの静かさで奏者の発する一音一音を固唾をのんで聴いている様子を感じます。なお、これは当時最高とされた彼の四重奏団ですが惜しい事にこの後すぐ解散しています。最高の状態の楽団をなぜ解散するのかと問いただすとジャレットは「もうこのグループでは何もすることは無く成ったから」と答えたという。

心の瞳 パート1

17:11

演奏者

キース・ジャレット (ピアノ ソプラノサックス タンバリン)

デーイ・レッドマン (テナーサックス タンバリン マラカス)

チャーリー・ヘンデン (ベース)

ポール・モチアン (ドラムス パーカッション)

1976年5月、ヨーロッパ、ツアー オーストリア ブレーゲツコルマルクト劇場の実況録音

合計 約45分